

中央中学校区 小中一貫教育の目指すゴールプラン

家族を 郷土を 愛し 志を立て 凜として 生きてゆく
吉川市教育大綱

具現化

自分を大切にし
郷土を愛し 自らになりたい
自分になるために 他者と協働し
あきらめずに希求し 学び続ける人

P B L ・ 探 究 的 な 学 び

個別最適な学び(学習の個性化、指導の個別化)

自分を育てる

県学調質問紙の分析から、中央中学校区では、「学習規律の確立」が重要課題であると分かった。落ち着いた学習できる環境、正しい姿勢など、中央中学校区が共通の認識をもち、実践する必要があると考える。

学び続ける

県学力学習状況調査の結果から、各校「基礎基本の確実な定着」という部分が弱いことが分かった。知識を定着させるために家庭と連携したり、教科横断的な学習を通して復習したりするなど、繰り返し取り組ませる必要がある。

★教科等

<国語>『なます』を3校統一して使用
<算数・数学>振り返りを毎時間・単元ごとに行う。
<外国語>目的や場面を設定して、必要感をもたせる。
<社会>当事者意識をもつことができるような発問の工夫。
<理科>課題の文言、発問の工夫。日常生活から材料を集める。
<図工・美術>鑑賞カードの活用。
<体育>ICTの活用、児童生徒自身が振り返りを考えられるようにする。
<音楽>オクリンクや振り返りカード、演奏の様子を録画。
<技術・家庭>毎時間の小さな振り返りから次の課題を設定に。

R6

- 講師を招聘し、総合的な学習の時間に関する講演会を実施。
- 全教科における中央プランの実践。
- 授業中での交流活動の重視。

R7

- 学力の向上を意識した効果的な振り返りの研究
- 自己肯定感や自己効力感を高めるための学級経営及び学習指導の研究と実践

R8 NEW

- 学力の向上に向けて、小中一貫共通目標を設定し、部会を設置する。
- 振り返りを行う、自分の学習を把握し、最後まで「粘り強く取り組む」児童の育成。

★教科外等

<道徳>自分事として振り返る時間を確実に設ける。
<特別支援教育>学習活動の可視化(教室掲示・ICTの活用)。

全学調・県学調の結果分析及び授業改善の検討

小中相互授業参観の実施
R5 関小公開授業 R6 関小・栄小公開授業
R7・R8 小中相互公開授業

R7

- 昨年度のアンケート結果をもとにした各校における中央プランの重点取組事項を決定。
- 学力向上を意識した中央中学校区共通の取組を実施
- 講師による、PBLや総合に関する研修

R8 NEW

- 「主体性」について研修したことを生かし、児童生徒が仲間と励まし合いながら課題解決を行う授業展開の研究を行う。

R8 NEW

- 小中一貫交流会を実施し、中一ギャップ解消を目指す。
- 見通しをもたせ「学ぶ意欲を高める」導入の研究を行う。

中央プラン③
「学習の振り返り」
(認知的方略)

R6

- 各校における中央プランの重点取組事項を決定。
- 関小：学習の仕方(自己決定的な学び) 栄小：学習の振り返り
- 中央中：3つの中央プランをバランスよく取り入れる

★教科外等<総合的な学習の時間>テーマ・発表の自己決定
<特別支援教育>学習活動の可視化(教室掲示・ICTの活用)。
<ICT>中央中の「自分大切主義」ルールを周知しつつ、子どもたちの意見を中心にルールを作っていく。

R6

- 小中間代表委員会の交流(オンライン：全3回) ・小中交流(6年生の中学校訪問・中学校教員による体験授業)
- 中学校生活のパンフレット作成
- 中央中特別支援学級授業体験会、3校特支交流会

R7

- 小中間代表委員会の交流 ・小中児童生徒間交流(6年生の中学校訪問・中学校教員による体験授業・小中交流活動)
- 中央中特別支援学級授業体験会、3校特支交流会
- 地域人材の積極的な活用(総合的な学習の時間 等)

★教科等<国語>まとめの形を工夫する。
<算数・数学>ICTを含めた教材教具の効果的な活用
<外国語>子どもたちからの課題設定を促せるように手立て。
<社会>新聞や広報の活用。
<理科>分野ごとの見通しをもたせ、適切な方法でまとめる。
<体育>ICTの活用、また、児童生徒自身が課題を考えられるようにする。
<図工・美術>見本や例を提示、学年に応じた制作の計画をたてさせる。
<音楽>児童生徒自身による楽器の選択、共通事項の徹底。
<技術・家庭>基礎基本を教えた上で、自分で選択し活用させる。

★教科外等<特別活動>委員会活動の交流、小中間アンケート
<総合的な学習の時間>相手意識をもった学習の展開、グループでの交流
<道徳>児童生徒が交流し深める。彩の国の道徳の充実。
<ICT>クラスルームの活用
<小中連携>中学生も小学生に見せ、活動に充実性を持たせる。
・あいさつ運動 ・学校や部活動の見学 ・陸上練習参加 ・音楽や作品の交流

ハイパーQUの結果分析及び学級経営改善の検討

令和5年度
小中一貫合同
研修会にて作成

中央プラン②
「学習の仕方」
(柔軟的方略)

中央プラン①
「学習の見通し」
(プランニング方略)

★教科等<国語>対話から単元計画をたてる。
<算数・数学>基本的な授業の流れをそえる(問題・課題・自分の考え・まとめ・振り返り)。
<外国語>小中によるオンライン英会話の実践。
<社会>考えをグループで伝え合う。
<理科>班で協力して実験・観察・考察できるような役割の工夫。
<体育>選択肢を与えるなどの手立てをし、トライアンドエラーの繰り返しをする。
<図工・美術>友達の作品から自分の制作に生かしたいポイントを書かせる。
<音楽>発表会、授業の見通しをもたせる。
<技術・家庭>作品の見本を提示。

協働的な学び

県学調質問紙の分析から、中央中学校区では、「あいさつ」「返事」の数値が低い傾向である。児童会・生徒会を中心に、お互いの取り組みを紹介し合い、意識を高めていく必要がある。

他者・自然と共に生きる

令和十年
令和九年
令和八年
令和七年
令和六年
令和五年

・自分で考え、自己で決定して主体的に動くことができる。
・自ら問いを立て、探究していくことができる。
・自他を認め、課題解決に向かって最後までやり抜くことができる。

・自分と他者の意見を比較し、その上で、自分の考えを表現することができる。
・課題解決した経験を他の活動に活かすことができる。
・問題や課題について「自分ごと」として捉え、活動することができる。

・自分を見つめなおし、よりよくするために活動することができる。
・自己で課題を発見し、その解決に向けて取り組むことができる。
・身の回りの郷土や自然について興味を持ち、自分の生活と結びつけることができる。

・友達や教師に自分の意見や考えを伝えることができる。
・身に付けた知識や技能を活かし、新たな課題の解決に取り組むことができる。
・相手の立場に立ったものの考え方ができる。

・自分や友達のよいところを見つけ、認めることができる。
・課題に向かって見通しを持って活動に取り組むことができる。
・他者と協働し、課題解決にあたることができる。

卒業

充実発展期

習熟・つなぎめ期

基礎基本習得・定着期

入学

第3ステージ(中3、中2)

第2ステージ(中1、小5)

第1ステージ(小4、小1)

R7年度の取り組み
3校の校内研究の共通主題である「主体性」にフォーカスをあてて、研修を行った。

9才のかべ

自己肯定感の高揚

学力向上

非認知能力の向上